



NEWS

あかりのたより

施設例紹介

- 万国津梁館
- 新潟スタジアム
- 雲鷹丸
- 常陸那珂火力発電所
- 金鐘城跡広場

沖縄地区活動状況

平成13年度版「住まいの照明手帳」

平成13年照明普及賞の募集について

第41号

平成13年11月

View

施設例紹介(Part1)

●万国津梁館(沖縄)

沖縄サミット会場となった施設は、東シナ海に広がる風光明媚な場所に立地しています。民家・集落を意識した低層分棟の設計は照明計画においても貫かれ、沖縄らしいヒューマンな光環境をコンセプトとしており、沖縄の月桃紙を用いた照明も同じ思想からうまれたデザインと言えます。

(資料提供：国建、ヤマギワPDC)

▼施設全景



▲大会議室

Close-up

万国津梁館

「万国津梁館」は、沖縄県北部の名護市瀬名岬にあり、眼前には東シナ海の眺望がのぞめる場所にあります。

九州・沖縄サミットのメイン会場として使用された施設は、「リゾートとコ

ンベンションの融合」「人と自然との対話」をテーマに沖縄の風土・文化を意識した設計がなされています。

■照明コンセプト

沖縄らしいヒューマンな光環境をコンセプトに、照明はできるだけ目線より低く、素朴な手法になるよう周到に計画されました。

■アプローチ・屋外照明

施設はすべてテラスと回廊で結ばれています。

昼間は強い日差しを遮り、夜間はブラケットの柔らかいあかりをたよりに散策できるようプランされ、一日中自然を感じることができます。(写真1参照)

■室内照明

室内にいながら自然のうつろいを感じ取れるように、人工光は調光可能となっています。また、ダウンライト等の照明は、建築の造作に隠すように取り付けられ、インテリアのしつらえに溶け込むよう配慮されています。(写真2参照)

■デザイン

作為的にデザインを凝らすのではなく、土地でとれる素材やテクスチャーにこだわり、それらが効果的に用いられました。

大会議室・レセプションのシャンデリアは、セードに沖縄の月桃紙を使用し、ブラケットは、九州産の土から陶器のセードを焼き上げて、九州・沖縄らしさを表現しています。(写真1、2、3参照)

■まとめ

沖縄の伝統的民家や集落をイメージした「万国津梁館」は、低層分棟型の施設がテラスと回廊でむすばれ、各棟間に池、滝、植栽帯を設け、海へのパノラマ的眺望と開放感で満たされています。

照明は、まるでデザインなどされていないようにデザインされることで、空間に溶け込み、ロケーションがひき立てられるように一番の配慮がなされました。



▲回廊：テラス・回廊はブラケットのみの光(写真1)



▲大会議室：ダウンライトの存在を感じさせない、美しい天井(写真2)



▲レセプション：外の陽光の存在を感じられる程度の明るさ感、月桃紙のシャンデリア(写真3)

ご協力いただいた皆様 玉城 泰 様・稲嶺豊子 様(沖縄電力)、福田俊次 様・久高 実 様(国建)、山本博之 様(ヤマギワ)、勝山茂樹 様(閃電サービス)

編集スタッフ

主査：瀬川太郎(関西電力) 幹事：杉山真弓(松下電工)
委員：小川史世(岩崎電気)、佐取 潔(小糸工業)、平野里香(東芝ライテック)、藤本浩之(関西電力)、水島保之(三菱電機照明)、頼本雄高(ヤマギワ)、押田直子(照明学会)

Report

沖縄地区活動状況

Q 沖縄地区における照明普及活動の状況は？

A 東京などの大都市と比較すると沖縄地区には大規模施設の建設が少ないですが、一つの県という単位で考えれば優良な施設および施設照明が多いのではないのでしょうか。また沖縄の場合、リゾート施設が全国的に注目されるケースが多いのも特徴です。今回特集となったコンベンション施設「万国津梁館」については、サミットのメイン会場として全世界的に注目され、自然と美しさとの調和をはかった施設は沖縄を効果的にPRできたのではないかと思います。

Q 万国津梁館における試みは？

A ご存知かもしれませんが、沖縄は本土と比べ大変失業率が高くなっています。本土が5%だったら、沖縄はその倍近い9%台というのが現状です。このような状況の中で、人々は少しでも県産のものを使おうと努力しています。沖縄には月桃という植物がありますが、その月桃から作られた紙を素材にした照明が制作されたことは大いに喜ばしいことです。ちなみに、この月桃紙には空気を浄化させる効果もあると言われているそうです。

Q 沖縄地区の照明の特徴は？

A 統計資料があるわけではないのですが、沖縄の家庭においては電球色よりも白色の照明のほうが好まれている傾向があるように思います。玄関先からトイレから全て白色といった家も多く、蛍光灯に昔から慣れ親しんでいるのかもしれませんが。

Q 白色は涼しげな印象として好まれるからでしょうか？

A それもあるかもしれませんが、気候が温暖な沖縄は冷房等に使用する電気の割合が多く、省エネ照明として蛍光灯が歓迎され、それが県民の好みに定着したのかもしれませんが。しかし今後は電球色を取り入れた「くつつるぎ感のあるあかり」も提案するなど、

▼質問にお答えいただいた沖縄電力 玉城様(右から2人目)



あかりの楽しみ方に対する啓蒙活動も行っていく予定です。

Q 照明という観点でほかに特徴はありますか？

A 年末になると庭先を照明で飾るイルミネーションを行う家庭が年々増えてきているように感じます。あちこちの家庭で様々な趣向を凝らした照明がみられるのは、景観のうえでも精神的な意味でも大変よいことなのではないのでしょうか。このような、家庭での

小さな試みをきっかけに、照明にもっと関心と親しみを持っていただけるように努力していきたいと思っています。

Award

平成13年照明普及賞候補の募集について

本年度の照明普及賞の募集が始まりました。照明学会・賛助会員B(旧称：照明普及会)の皆様より多数のご応募をお待ちしております。

……………応募要領抜粋……………
(施設・功労両部門共通)

- 照明学会賛助会員B(旧称：照明普及会維持員)より推薦のある者。施設部門については自薦も可とする。
- 平成14年1月末日までに各地区へ応募資料を提出。但し、関西地区については13年11月末を締め切りとする。
- 応募資料は返却しない。また、写真等は本会出版物等への使用を承認するものに限る。
- 応募資料には地区によって異なるものもあるので、各地区に問い合わせる。

(施設部門)

- 候補者は施設完成に多大な功績のあった者。
- 平成13年1月1日～12月31日に完成した施設。

【普及賞関連スケジュール概要】

- 2001.10…………… 募集開始
- 2001.11末…………… 関西地区応募締め切り
- 2002.01末…………… 応募締め切り
- 2002.02…………… 地区審査
- 2002.03…………… 本部審査・決定
- 2002.05…………… 発表・表彰式開催

平成13年度版 「住まいの照明手帳」

10月21日「あかりの日」を記念して、毎年行われる「あかりの日」キャンペーン。このキャンペーンに使用されるPRリーフレットとしても馴染み「住まいの照明手帳」の平成13年度版が発行されました。この手帳は「あかりの日」委員会より委託され照明学会・普及部で作成しているものです。今回も、たくさんの方に照明に関する知識を効果的にPRできるように、わかりやすさを第一に考えて編集しました。あかりの日行事では、この「住まいの照明手帳」に加え、電球およびアンケートはがきを同封し全国で配布しました。



施設例紹介 (Part 2)

●新潟スタジアム

2002年ワールドカップサッカー大会の会場となる「新潟スタジアム」が完成しました。観客を覆う白い屋根は、隣接する鳥屋野潟に飛来する白鳥をイメージしています。
(資料提供：松下電工)



▲新潟スタジアム

●東京水産大学 雲鷹丸

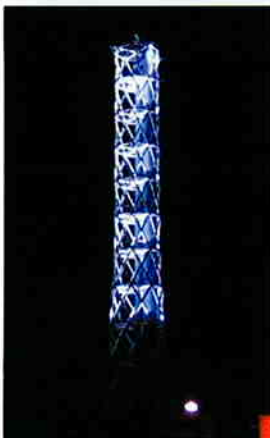
東京都港区の東京水産大学構内に展示されている練習船「雲鷹丸」がライトアップされ、夜空に白い船体が浮かび上がりました。雲鷹丸は1909年に就航し、1929年まで20年間にわたり、学生実習、漁業調査などに活躍し、現在は文化庁の登録有形文化財に指定されています。ライトアップは毎日、日没から2時間実施され、周辺道路からも一望できます。
(資料提供：東芝ライテック)



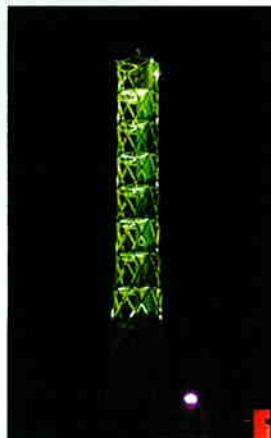
▲雲鷹丸ライトアップ

●東京電力・電源開発 常陸那珂火力発電所 煙突ライトアップ

茨城県の常陸那珂火力発電所の煙突が地域のランドマークとしてライトアップされました。RGB 3色の光源（ナトリウムランプ、カラーメタルハライドランプの青と緑）を使用し、現在は各色を組み合わせることによって7色に変化する演出をおこなっています。時間と共に変化する色によって煙突の表情も移り変わり、地域の美しい景観をつくっています。
(資料提供：三菱電機照明)



▲R+G+B



▲R+G



▲R+B

●金鐘城遺跡広場

兵庫県小野市の歴史公園環境整備事業に基づき、金鐘城を市民の憩いの場として公園に造成。城跡としてのイメージを残すため、木の橋や堀を公園周囲に巡らせており、公園内はあたかも中世の山城のようで、当時を偲ばせています。園路灯は山城らしさを大切にするため「たいまつ」をデザインし、光源に採用した高圧ナトリウムランプが夜景に見事に調和しています。この園路灯にはコンセントが内蔵され、春は花見、秋は月見など市民のイベントや祭りなどに利用されています。
(資料提供：小糸工業)



▲金鐘城夜景